

58

千代田区景観まちづくり重要物件

弁慶橋

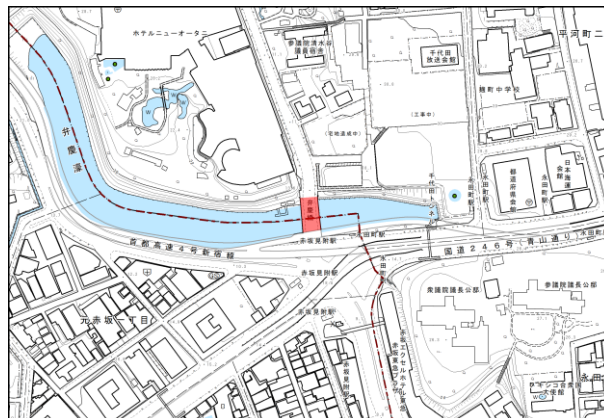
指定日 2007(平成 19 年)3 月 28 日

所在地 紀尾井町 1,4 番先～港区元赤坂一丁目 2 番先 (弁慶濠)

設計者 -

竣工 1985 (昭和 60) 年

文化財等
指定状況 -



▲弁慶橋 橋上からの景観

歴史・文化的特徴

弁慶橋は、紀州藩屋敷跡地から弁慶濠に架かる橋として1889（明治22）年に初めて架けられました。周辺は桜の名所でもあり、旧橋は江戸名所図絵にも紹介されています。行楽的雰囲気のある一帯であり、橋のデザインにそれが反映されていました。

1911（明治44）年に改架された後、1927（昭和2）年に震災復興橋梁として改架されました。更に、1945（昭和20）年5月25日の山手大空襲で高欄が焼失しましたが、1950（昭和25）年に高欄が復旧されました。その後、1985（昭和60）年11月に改架され、現在に至ります。

意匠・構造の特徴

簡素な単純桁橋ですが、全体に若干のアーチをかけ梁組をみせた木橋風とされ、擬宝珠や高欄等の細部に和風の意匠が施された特徴的な橋となっています。



◀ 弁慶橋の親柱

周辺景観との関係

歩行者からは擬宝珠がある和風の高欄が目にとまります。高層ビル群や紀尾井町の緑、弁慶濠の水面に対する眺望点となっています。橋が低く、水面を間近に感じる視点場でもあります。

周辺道路や公園からは、和風の橋の印象的な全景や、石垣や緑、弁慶濠の水面と調和した景観を見ることができます。

赤坂からは、高層ビル群から緑豊かな紀尾井町へ至るゲートとしての橋が、高揚感のある景観を生み出しています。

逆に紀尾井町からは、高層ビル群や首都高速道路の高架が生む出す近未来的な景観を見ることができます。